

長 松 太 郎 (ながまつ たろう) —

森 堯 夫

(㈳)日本公園緑地協会副会長

大正元年（1912）東京市生まれ。学習院を経て昭和11年東京帝国大学農学部を卒業、内務省神社局に務め昭和12年現役兵として近衛輪重兵連隊へ入隊、満期除隊の後都市計画東京地方委員会に勤務した。昭和16年正5位男爵となる。同年内務省国土局計画課に移ったが神奈川県庁へ転出後、陸軍中尉として再度応召復員後、戦災復興院施設課に勤務した。氏の性格は豪放磊落で酒を好み周囲から愛されていた。

施設課に在職中、公園の施設について建築物等の許容建蔽率が明確でなかったため種々の混乱が生じていたので、公園施設基準の立案作成を担当し成案を得て都市局長名で全国に通達した。この基準は後に制定された「都市公園法」の技術的基準となったものである。又当時は終戦直後のことでの国有地を墓地にするという事例が多くだったので、氏は墓地についても研究され墓地計画及びその標準等の外、墓地移転に関する事務、手続、方法等についてとりまとめた文献がある。

建設省公園緑地課長の時代（昭和37年）には「都市の美観風致を維持するための樹木の保存に関する法律」の制定に貢献し、全国の市町村の樹木で一定の基準に合致するものは、保存樹として指定し保存するという制度をつくっている。

昭和38年には広島市の建設局長として転出したが、当時戦災復興土地区画整理地区内に計画されていた河岸緑地内に約1,300戸の不法建築物があり、換地処分の支援となっていたのみならず市の美観、衛生上からも著しい障害となっていた。これ

に対し氏は市長、助役、市職員の協力を得て昭和41年より代執行を行ない、その後引きつづき昭和45年迄に全部の撤去を完了し、広島市の特徴の1つとなっている河岸緑地の整備が実現している。

又広島市の基町地区には戦後の仮設住宅等が多く建られ、所謂原爆ラムと呼ばれる不良住宅があった。その一部は再開発されたが不法建築も多く残っていた。河岸緑地の整備も進んだのでこれと併せ移転を促進し、昭和21年に都市計画決定されていた中央公園を整備した。

その他(㈳)日本公園緑地協会では「沖縄国際海洋博海浜公園基本計画」の委員長を、又「広島市河岸緑地整備計画設計協議会」の委員を委嘱し、これらの設計を策定している。

